

# 大学新卒者の就職難の実態

労働政策研究・研修機構

特任研究員 伊藤 実

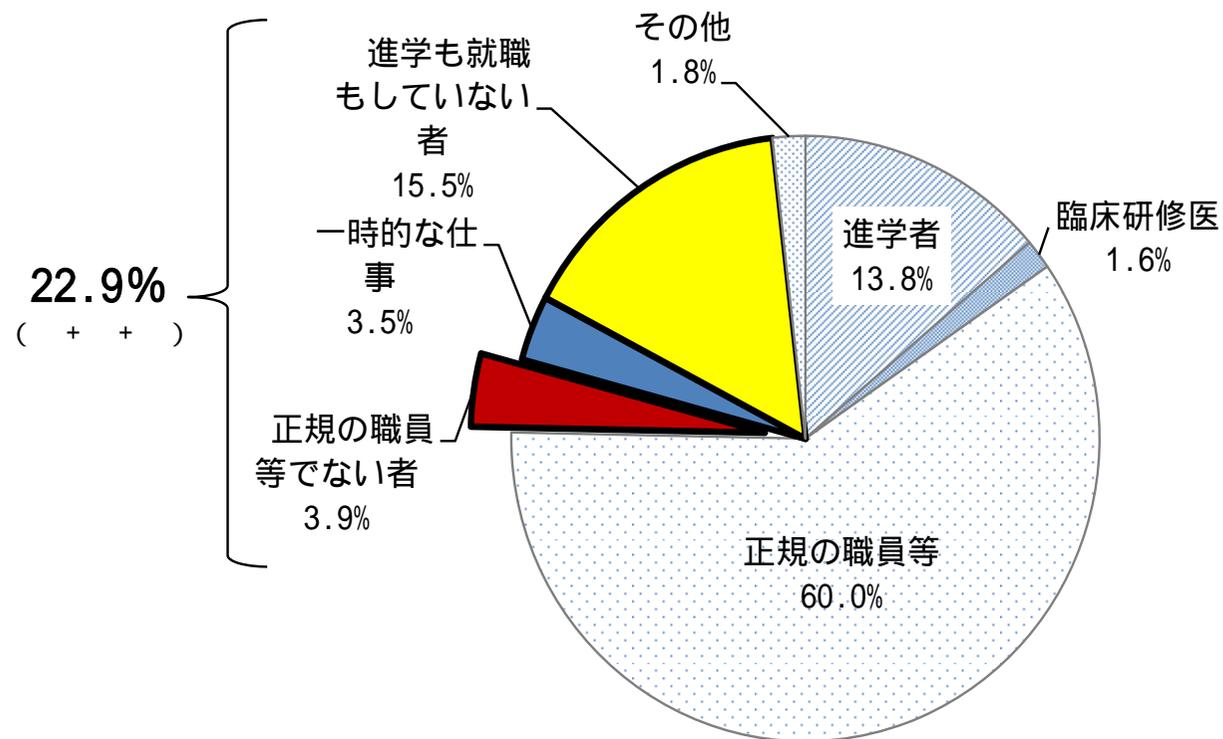
# 内定率と就職率はどこが違うか

- \* 就職内定率 : 93.6% (2012年4月1日)
- \* 就職率 : 63.9% (2012年3月卒)
  
- \* 就職内定率は、調査対象が有名大学など112校に限定されていて、分母が就職希望者になっている。
  
- \* 就職率は、全ての大学(学部)の卒業者が分母になっている。

# 大学(学部)新卒者の進路(平成24年3月卒) (不安定就業者・無業者が12万8千人)

文部科学省「平成24年度学校基本調査」

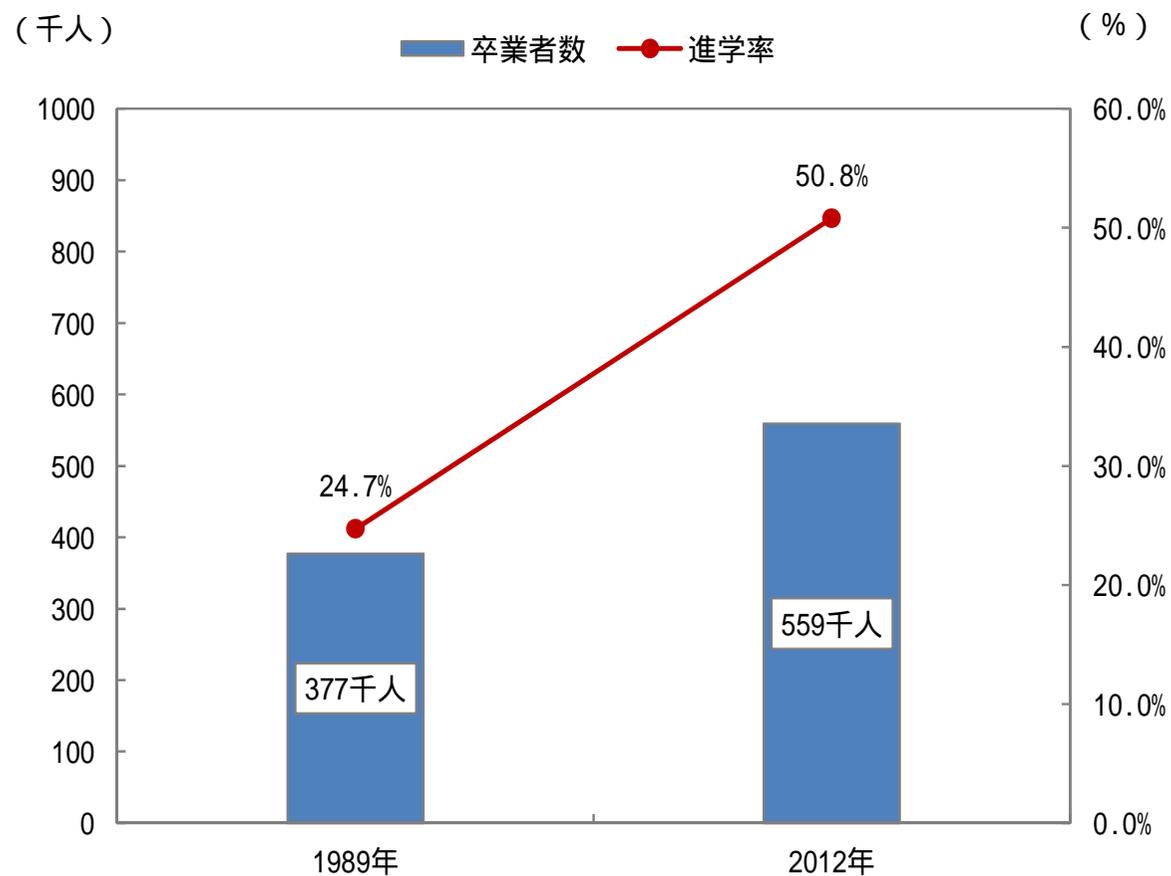
<大学学部 計>



# 就職難の背景

進学率の上昇による大学生の急増（卒業生18万人増）

文部科学省「平成24年度学校基本調査」



# 大学生の学力低下 国際学習到達度調査 (PISA)

\* 日本の順位 (対象は15歳の生徒 / 2000年、2003年、2006年)

\* 数学的リテラシー : 1位                  6位                  10位

\* 科学的リテラシー : 2位                  1位                  5位

\* 読 解 力 : 8位                  14位                  15位

# 大学生の格差拡大

- \* 大学・学部増加

1992年度 523校

2010年度 778校(255校増)

- \* 入試選抜方法の多様化(平成20年4月入学者)

一般入試割合 : 国公立(82.5%)

私立(48.6%)

推薦・AO入試割合 : 国公立(16.6%)

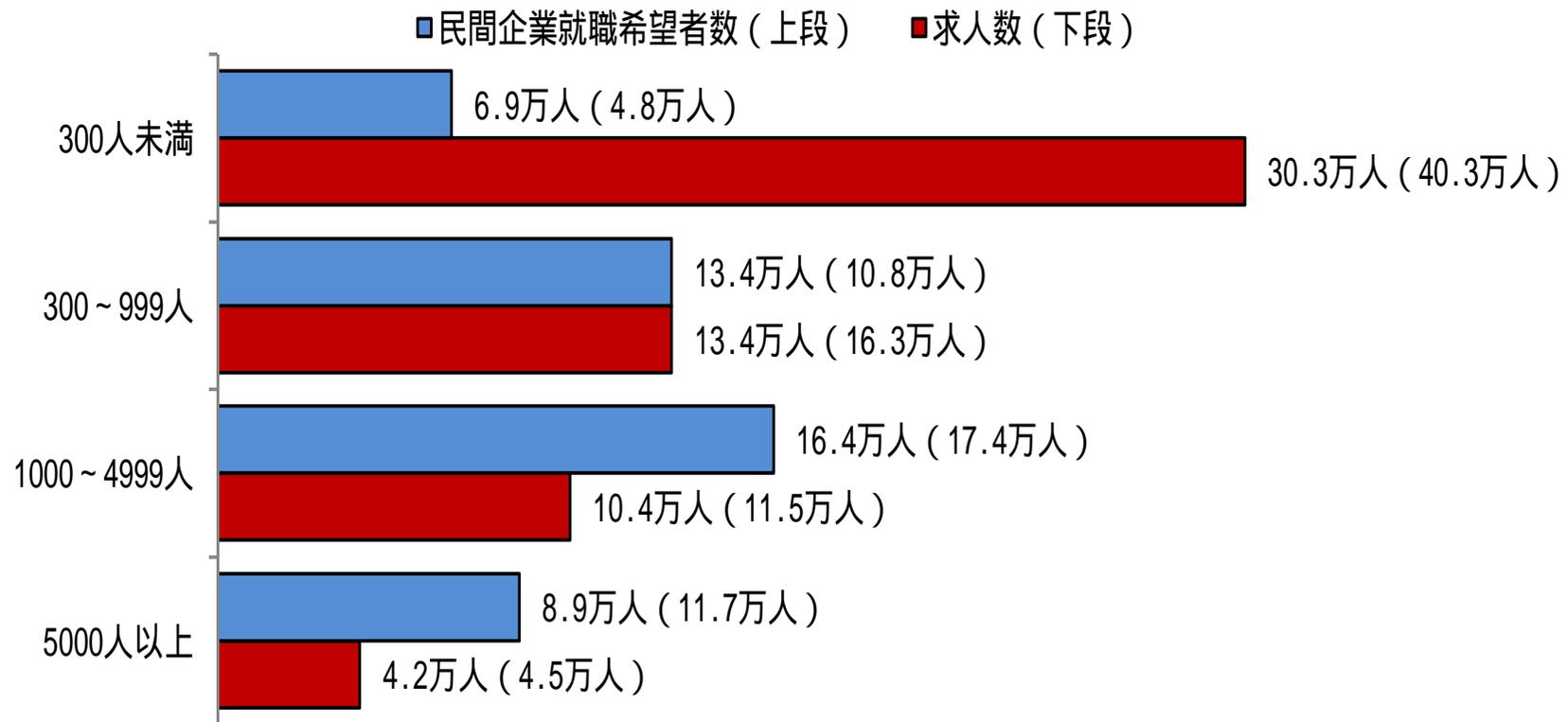
私立(50.8%)

- \* トコロテン式の卒業認定

# 強すぎる大企業志向

## 従業員規模別大学新卒就職希望者数と求人数

(リクルートワークス研究所「第27回ワークス大卒  
求人倍率調査(2011年卒)」) / ( )は前年値)



# 間違いだらけのキャリア教育

- \* 過剰な自己分析・適職診断は就職可能性を狭める。
- \* 配置転換、技術革新などによって計画的なキャリア形成は難しくなっている。
- \* 成功したビジネスマンのキャリア形成の80%は「偶然」
- \* 最も重要な職業能力は「変化適応力」
- \* 「変化適応力」を支えるのは「学習能力」
- \* 大学教育ではいかに「学習能力(考える力)」を身に付けさせるかが重要

# 大学教育における対応策

- \* 卒業生の品質保証(問題学生の再教育)
- \* 学生の学習能力を高めるにはゼミ等の少人数教育が不可欠
- \* 学生への正確な企業・職業情報の提供
- \* 志望業種・企業・職種を絞り込む職業指導
- \* 企業研究の指導(駄目元エントリーの防止)
- \* まともなインターンシップの活用

# 企業の採用選考の実態と改善点

- \* 応募者が殺到する有名大企業はターゲット校を設定  
(ターゲット校は20～30校)
- \* 問題多い企業情報の内容  
抽象的な採用選考基準(コミュニケーション能力等)  
学業成績の軽視ないしは無視
- \* 企業情報の改善点  
求める人材像や評価する大学時代の活動暦の具体化  
一定レベル以上の学業成績や英語力などを明記  
入社3年後の離職率、残業時間、採用実績校の公表
- \* 中小企業はデジタルよりもアナログによる企業情報の発信が有効  
(キャンパスリクルート等)
- \* インターンシップの有効活用

# 採用選考にあたって特に重視した点(5つ選択)

日本経済団体連合会「新卒採用(2011年3月卒業者)に関するアンケート調査」

